

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船フレート

2月15日から、12月と同様にGR I（General Rate Increase：基礎レート）の\$150（LA/LB港は\$100）値上げが各船会社で実施されました。引き続き、さらに4月1日からGR Iの一律\$300と、BAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）の\$22値上げ通知連絡が来ています。また、カナダ航路についても、4月1日からGR Iの\$200とBAFの\$22値上げ通知連絡が来ています。各船会社とも世界的な不況を背景に経営悪化が続いているため、今後も定期航路の削減、船会社同士での共同運航による限られたスペースの共有化などで合理化を進めているため、船腹のタイト感が続く見込みです。

UAE・中国需要動向

米国産アルファルファ輸出量（MT） 1-12月

	2007年	シェア	2008年	シェア	2009年	シェア
日本	490,106	66%	558,492	61%	686,212	44%
韓国	134,489	18%	159,352	17%	170,022	11%
UAE	27,946	4%	103,419	11%	486,010	31%
台湾	54,227	7%	51,248	6%	47,918	3%
中国	2,321	0%	19,348	2%	74,986	5%
ベトナム	1,117	0%	1,248	0%	1,817	0%
その他	38,299	5%	24,951	3%	80,224	5%
計	748,505	100%	918,058	100%	1,546,189	100%

1月号でご案内の通り、特に昨年からUAE（アラブ首長国連邦）向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出され始めました。昨年累計では日本向けがまだ1番の輸出量となっていますが、4、5、8、9月単月で、それぞれUAE向け輸出が日本向けを上回る結果となりました。国内で貨物が滞留しているとの情報もあり、船積みは一時期と比べて減っているようですが、UAEからは今年

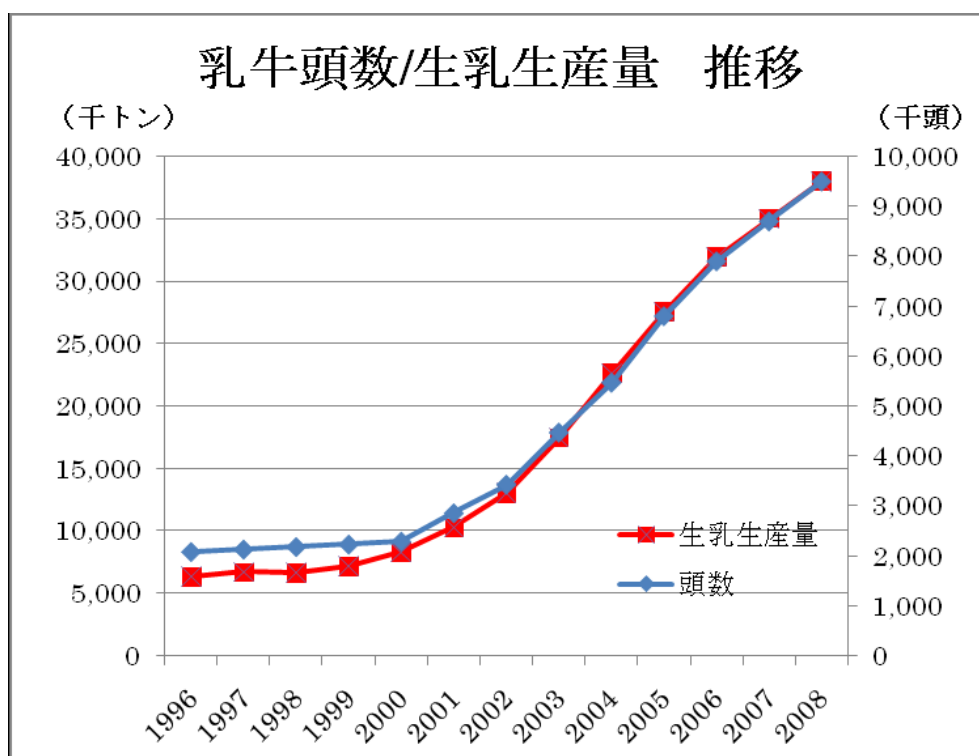
もアルファルファだけではなく、禾本科牧草の引合いも強いことが予想され、今後も動向に注意が必要です。

UAEだけではなく、中国への乾牧草輸出数量も年々増加しており、アルファルファは前年対比387%となっています。これは中国経済の発展にともない、高品質の牛乳や乳製品の需要が増えているためと考えられます。乳業会社の直営牧場やその他の牧場も増設計画により、飼養規模も増大していく傾向にあります。生乳生産量はすでに日本の4倍強となっており、多くのサプライヤーが乾牧草の新興市場として位置づけているため、今後も動向に注意が必要です。

企業名	製品名	市場シェア
蒙牛	特侖蘇	71.9%
伊利	金典	17.2%
公明	優+	6.9%



中国酪農統計



ビートパルプ

<米国産>

09年産は9月1週目の収穫開始から降雨が多く、収穫作業の中断を余儀なくされた圃場が多かったことと、寒波の到来が例年より早く一部圃場ではビート大根が凍結してしまい、収穫を断念せざるを得なかったことから、収量は約20%程度減少している、との情報もあります。中国産の供給不安から韓国の引合いは非常に強いようですが、追加需要に対しては供給制限をせざるを得ないほど、在庫は少なくなっている模様です。

中西部での大寒波により、ビートパルプの輸送にも影響がありましたが、工場からの出荷は通常のペースに戻りつつある模様です。しかしながら、折からのコンテナとスペース不足により、今後も日本および韓国向けの出荷に、大きな遅れが発生する可能性もあります。

<中国産>

中国産ビートパルプの09年産については、作付面積が減少し、悪天候続きにより収量も減少しているため、一部では前年対比で収量が約60%減少している、との情報もあります。中国国内の需要も増加傾向にあり、供給余力は限定的なものになると予想されています。

韓国の輸入統計によると、1月のビートパルプの総輸入量は13,180トンで、そのうち中国産は約半分と、引続き減少が続いています。その他は米国、オランダ、デンマーク、ドイツ産と多岐に渡り、中国産からの移行が進んでいると推測されます。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

輸出向けの需要は強く、供給がタイトな状況が続いています。特に3タイププレミアム品への需要が強く、ほぼ完売の状況です。

10年産のアルファルファ作付面積については、チモシーなどの作物への転作を検討する生産農家もいるため、また米国内からの引合いはまだ強くないことから、5%程度の減少が予想されています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が始まっています。天候不順により、刈取り作業も遅れ気味で、良品の生産量も僅かな見込みです。

チモシー

<米国産>

ハイグレード品（馬用・牛用プレミアム品）からスタンダード品まで引合いは総じて強く、現時点では完売で、追加での買付けは厳しい状況です。順調な需要と船積みを受けて、他の農産物と比較して生産農家が満足できる価格で推移していることから、10年産のチモシー作付面積については10%程度の増加が予想されています。

<カナダ産>

09年産は生産量が少なすぎたため、特にハイグレード品は完売の状況です。1月の日本の輸入数量は、08年10月以来となる10,000トン割れとなりました。一部の需要が米国産チモシーや、豪州産オーツヘイに移行している模様です。

カナダ国内からの引合いや、小麦の相場価格が低迷しているため、10年産のチモシー作付面積については今のところ5%程度の増加が予想されています。

スーダン

インペリアルバレー産は、茎細のプレミアム品およびライトカラー品については引続き引合いがあるものの、完売の状況です。小麦の作付面積については相場価格が低迷しているため、2/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比55%の51,134エーカーと大幅な減少となっています。このことから、10年産のスーダン作付面積については、増加すると予想されています。

北カリフォルニア産は、ハイグレード品を中心に完売の状況です。小麦など他の農産物の相場価格が不安定なことから、10年産のスーダン作付面積については、インペリアルバレー産と同様に増加することが予想されています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

クレイングラスの船積みは、順調に推移しています。1月から新年度のクォータ（輸入割り当て）が始まった韓国からの引合いも、ここにきて強まっている模様です。

インペリアルバレーでは、10年産のクレイングラス作付面積については2/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比85%の12,002エーカーとなっています。産地価格が低調に推移しているため、生産農家の作付け意欲が減退し、更なる作付面積の減少が懸念されます。生育は今のところ順調で、1番刈の収穫は4月下旬から始まると予想されます。



1 番刈クレイングラス 2/26現在 長さ5-8cm

バミューダ

バミューダハイとバミューダストローは、ともに産地在庫には余裕がある模様です。また、バミューダストローは、豪州産オーツハイのローグレード品や中国産稲ワラとの競合から、荷動きは少し悪くなってきています。

ストロー類

値上げ一辺倒の産地価格の影響で、豪州産オーツハイのローグレード品や中国産稲ワラへの需要の移行もあり、日本向けの荷動きは悪くなってきています。特にポートランド港出しフレートの値上げ幅が大きいことも、価格上昇・荷動き悪化の要因となっています。需要減にともない価格は下がる、と例年ならば予想されますが、10年産のストローは大幅な減産が予想されているため、09年産のストロー類を売らずに保管している生産農家もいる模様で、産地価格は堅調に推移したままとなっています。

豪州酪農・農業情勢

現在の豪州の乳価は、大手乳製品メーカーの相次ぐ買取り価格の引上げにともない、回復基調にあります。一般的に豪州の乳価は固形分を基準に設定されており、地域、取引乳業メーカー別によって価格の幅はありますが、過去半年の間で12-20%程度上昇しています。この傾向は国際市場の回復による乳製品輸出価格の上昇に起因しており、安い乳価に苦しんでいた酪農家からは歓迎されています。豪州乳製品の輸出価格は3ヶ月前から4.3%上昇しており、これは昨年の底値の2倍弱にあたる回復ぶりです。豪州国内向けの市場については、大手スーパーのプライベートブランド商品による価格競争のため、乳業メーカーの利益はほとんど出ていない模様です。

豪州の生乳生産量は、昨年 11 月時点で前年同月比 5.4% の減で、特に最大の生産地域であるヴィクトリア州では 13.4% の減と、深刻な状況となっています。これは過去の乳価下落の影響と考えられますが、乳価は回復基調にあるので、今後の生乳生産量の動向が注目されます。一時はどん底にあった酪農家の経営状態も、乳価の上昇とともに徐々に明るい兆しが見えつつありますが、今後の豪州ドルの動向によっては農産物価格の変動、輸出価格の変動など、楽観できない要素もあります。

穀類については、世界的な供給過剰から 09 年度の小麦の価格は 9-12 豪州ドルの値下げと見込まれています。また、キャノーラは史上 2 番目の豊作と予想され、価格下落も予想されており、生産農家にとってはオーツの作付け意欲が向きやすい環境といえます。

豪州産オーツハイ

主要な産地での 09 年産の生産は終了しました。各産地とも、播種前後と生育期に適度の降雨があったことでオーツハイの成長は良く、単収は例年以上となっています。そのため生産量は前年対比で 10% 以上の増加と見込まれています。

各サプライヤーともハイグレード品の引合いは強く、現時点ではほぼ完売（成約済み）で価格も堅調な見込みです。一方でローグレード品は荷動きが悪く、また中間グレード品は発生量が多かったために、ともに数量に余裕があり、コスト面では厳しいものの価格が軟化することも予想されます。

以 上